

化することであった。また、本症例のように全身麻酔下での手術が困難な重度合併症の患者では、局所麻酔下で低侵襲に感染を沈静化できる本手法は、画期的な方法として注目を浴びている。

脊椎疾患に対する内視鏡手術の課題

各種脊椎疾患への内視鏡手術が応用されるようになり、小さな傷で脊椎の治療ができるようになってきた。椎間板ヘルニアの摘出や、椎体生検、1椎間程度の骨移植手術は手術部位を限定すれば、内視鏡手術の良い適応となる。また、局所麻酔下で施行できる脊椎内視鏡手術は、全身麻酔に耐えられないハイリスク患者には最適である。しかしながら、脊柱変形に対し内固定金属を使用して矯正する手術を行う場合は、ワーキングスペースのない内視鏡手術では、動脈や神経に問題が生じても即対応ができず大きな事故となった症例もあり、手術の際には十分な注意が必要である。基本的には、内視鏡使用の脊椎手術では比較的単純な手技で治療が完結する病態に対して治療を開始し、ある程度手技に習熟してから少しずつ適応を拡大していくことが、大きな医療事故を回避し安全に良好な治療成績を獲得する鍵と思われる。

まとめ

脊椎疾患における内視鏡手術の現状について述べた。重篤な内科的合併症があり、低侵襲の手術のみしかできない患者には、内視鏡手術は大きな

手助けとなる。また、椎間板ヘルニアなど日常多く経験する一般脊椎疾患も、日帰り手術が可能となり、患者の肉体的また経済的負担も軽減される利点を持っている。しかしながら、その手術内容はまだ限られており、複雑な内固定金属の設置などはかえって手術時間の延長と、リスクの増大を招く可能性があり、十分慎重な対応が必要である。

文献

1. 整形外科関節鏡マニュアル脊椎内視鏡：松井宣夫,出沢明編集,メジカルレビュー社,2000,P42-72.
2. 夏山元伸,ほか：腹腔鏡,後腹膜腔鏡視下腰椎椎体固定術.内視鏡外科,3: 47-53,1998.
3. 江原宗平ほか：胸腔鏡視下に脊柱変形の前方矯正固定術を行うシステムの開発.臨床整形外科,34: 509-516,1999.
4. 山縣正庸ほか：内視鏡下腰椎椎間板ヘルニア摘出術の試み.関節鏡,23: 115-119,1998.
5. 長谷川徹：Microscopic discectomy.腰椎椎間板ヘルニア.NEW MOOK整形外科,越智隆弘,菊池臣一編,金原出版,1997,p181-187.
6. Anthony T. Yeung：Minimally invasive disc surgery with the Yeung endoscopic spine system. Orthopaedic Surgery. Surgical Technology International 8,P1-11.1999.
7. Manabu Ito, et al：Transforaminal Endoscopic Surgery for Pyogenic Thoracolumbar Spondylodiscitis. Proceeding of 3rd World Congress of Minimally Invasive Spinal Surgery & Medicine.2002.

専門部から

日医認定産業医制度研修会開催一覧

(道内開催分のみ)

◇産業保健部◇

主催者名	開催日時	開催場所	※1 基礎研修単位				※2 生涯研修単位				連絡先	備考	
			前期	実地	後期	計	更新	実地	専門	計			
日本がん疫学研究会 日本がん予防研究会	平成15年6月23日(月) 24日(火)	北海道大学学術交流会館 札幌市北区 北8条西5丁目			4	4				4	4	北海道大学医学研究科公衆衛生学分野 011-706-5068 (詳細はP45をご参照ください)	

※1 基礎研修— 新たに認定産業医の称号取得を目指している方が対象となります。

※2 生涯研修— すでに認定を受けられた方が対象となります。

お知らせ

日医認定産業医制度研修会のご案内

第26回日本がん疫学研究会(日本がん予防研究会共同開催)

標記研修会を下記により開催いたしますので
ご案内申し上げます。

開催日時 平成15年6月23日(月)~24日(火)

開催場所 北海道大学学術交流会館大講堂
札幌市北区北8条西5丁目
電話 (011) 706-2141

主催 日本がん疫学研究会、日本がん予防
研究会

講師および講演タイトル

6月23日(月) 13:30~17:00

日本がん疫学研究会ワークショップ

「職業・環境がんの疫学…低濃度(レベル)曝
露下でのリスク評価の現状と課題」

- 1) 「放射線作業者のがんのリスクとその評価」
村田 紀(放射線影響協会放射線疫学調査
センター長)
- 2) 「原発周辺住民の潜在的放射線リスク研究」
吉本泰彦(放射線医学総合研究所放射線安
全研究センター防護体型構築研究グルー
プ第4チームリーダー)
- 3) 「小児白血病と送電線・電気製品など環境
電磁場曝露について—日本における研究」
兜 真徳(国立環境研究所首席研究官)
斉藤友博(国立生育医療センター生育社会
医学研究部生育医学研究室長)
- 4) 「高周波電磁界曝露の健康影響」
山田直人(東京女子医科大学衛生学公衆衛
生学第II講座教授)
- 5) 「シリカアスベスト曝露による職業がん—
最近の研究から」
高橋 謙(産業医科大学環境疫学研究室教授)
- 6) 「パルプ産業における硫化物等の曝露と肺
がん・上気道がん…IARCマルチセンター

研究」

岸 玲子(北海道大学大学院医学研究科公
衆衛生学分野教授)

7) 「環境発がん予防におけるメカニズム研究
の重要性」

花岡知之(国立がんセンター研究所支所臨
床疫学研究部疫学研修室長)

8) 「放射線発がんと化学発がん」

秋葉澄伯(鹿児島大学医学部公衆衛生学教授)

6月24日(火) 9:35~10:35

教育講演

「健康と環境：リスク評価のデータサイエンス」

柳川 堯(九州大学大学院数理学研究院教授)

単位数 ワークショップで基礎研修後期3単位
または生涯研修専門3単位、教育講演で基礎研
修後期1単位または生涯研修専門1単位

受講料 一般参加—1,000円(2日間通し)、学
会参加者—無料(学会参加費5,000円に含まれ
る) ※ワークショップ、教育講演のみ一般公開
受講票 当日30分前に受付、研修会終了後に交
付します。

参加募集人数 300名

参加申し込み方法 事前に必ずFAXにて、下記
あてに申し込みのこと。申し込みの際には、受
講希望者の氏名、所属機関名、連絡先、医籍登
録番号、所属医師会、日医認定産業医の有無と
「有り」の場合の認定番号を記載のこと。

FAX宛先 011-706-7805

第26回日本がん疫学研究会事務局
(北海道大学医学研究科公衆衛生学分野・電話
011-706-5068)